

I 令和2年度の成果(数値目標)

数値目標	成果
<b>(1) 学校運営・組織</b>	
① 学校評価の満足度 生徒 85%、保護者 85%	生徒 83.2 %、保護者 92.6 %
② 服務事故 0件	0件
<b>(2) 学習指導</b>	
① 授業研究・校内研修の実施 学期1回	授業研究・校内研修 年間10回実施
② 自宅学習時間 1,2学年 2時間 3学年 2時間30分 4,5学年 3時間+eポートフォリオ	1学年2時間00分 2学年1時間49分 3学年2時間20分 4学年2時間49分 5学年2時間17分
③ 教員相互の授業観察 学期に1回以上	学期に1回実施(授業観察時等)
④ 全学年・全教科・科目の年間指導計画の改善及び生徒への配布	計画通り実施
⑤ 指名制による授業研究 延べ5人 大学入試分析会・教科指導講座等 延べ60人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず 延べ32人+オンラインによる実施
<b>(3) 進路指導</b>	
① 長期休業日中の講習  夏期講習・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・130講座の開設・受講者延べ2,000人 冬期講習・全学年で実施 ・40講座の開設 ・受講者延べ500人 春期講習・全学年で実施 ・40講座の実施 ・受講者延べ200人	新型コロナウイルス感染症の影響による休業期間の短縮や登校禁止のため、講座数等の減少。ただし、平日の朝講習、放課後講習を充実 →全学年実施 ・生徒提示 6月 ・39講座 ・受講者数 681人 →休業期間の短縮により中止 →3~5学年で実施 ・18講座 ・受講者数 受講者数 241人
② 自習室の年間利用者 延べ7,000人	延べ5,119人
③ 進学実績(現役) ・大学入学共通テスト試験5教科7科目型受験者 90人 86人 ・難関国公立大学等(東大、京大、一橋大、東工大、国公立大医学部)現役合格者 10人 12人 ・国公立大学合格者 50人 66人 ・難関私立大学(早大、慶大、上智大、東京理科大)現役合格者 70人 90人	
<b>(4) 生活指導</b>	
① 行事の満足度 85%以上	生徒 63.1 % 保護者 72.5 %
② 縦割り活動を取り入れた行事数 年間5件	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行事として実施せず
③ 規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組 3件	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画上の取組が実施できず
④ 朝のHR遅刻者数 3,000以下	2,563
<b>(5) 国際探究</b>	
① 大学と連携した取組 7取組	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず
② 英検 各学年の目標級の取得率(全体で) 70%	62.8%
③ 学校評価アンケート 「学校は国際教育に積極的に取り組んでいる」80%	新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により海外研修旅行などが中止、十分な国際教育が実施できず  生徒 67.6% 保護者 67.5%
<b>(7) 募集・広報・地域活動</b>	

① 本校での学校説明会 参加者数	3,300 人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web 開催に変更し申込者数を制限 1,399 人
② ホームページ アクセス数 更新	20,000 回 150 回以上	移行後の新ホームページではアクセス数のカウントなし 183 回
③ 地域等に広報誌「Tachikoku Times」発行	10 回	11 回発行
④ 応募倍率 一般枠	5.0 倍	4.62 倍
<b>(8) 施設設備管理・経営企画室運営</b>		
① 第3四半期 管理運営費と自律経営推進予算の執行率 85%以上		68.5 %
② センター執行率	55%以上	78.2 %
③ 令和3年度予算編成	2月完了	2月完了
④ 施設設備の課題改善または実施計画	100%	100 %

## II 令和2年度の成果（重点目標）

- 重点目標1** 国公立大学合格者50人 難関私立大（早大、慶大、上智大、東京理科大）70人  
⇒ 国公立大学合格者66人 難関私立大（早大、慶大、上智大、東京理科大）89人
- 重点目標2** 学校評価アンケート「学校は国際教育に積極的に取り組んでいる」80%  
⇒ 生徒67.6% 保護者67.5%
- 重点目標3** 朝のHRの遅刻者数 3000以下  
⇒ 2563
- 重点目標4** 自宅学習時間の確保 1、2年生 2時間 3年生 2時間30分  
4、5年生 3時間+eポートフォリオ  
⇒ 自宅学習時間の確保 1年生 2時間 2年生 1時間49分 3年生 2時間20分  
4年生 2時間49分 5年生 2時間17分
- 重点目標5** 学校評価 生徒の満足度85% 保護者の満足度85%  
⇒ 生徒83.2% 保護者92.6%

## III 令和2年度を取組と評価

### (1) 学校経営・組織

- ① 企画調整会議を中心として課題の共有はできつつあるが、分掌間でのスピード感覚を持った課題解決が発展途上である。そのため、教職員一人ひとりの当事者意識を向上させる必要がある。
- ② ライフ・ワーク・バランスを意識した働き方改革を目指し、管理職からの喚起等により超過勤務の教員を徐々に減らすことができたが、優先度を意識した業務の精選については発展途上である。
- ③ 企画調整会議を中心とした校務運営はある程度定着しているが、教科主任会議及びPDCA会議については、課題に対する対応策を早め早めに提案して組織的に解決を図る工夫が必要である。
- ④ 授業評価の結果について教員個々へのフィードバックを行った。学校評価の結果については、教職員間で課題が十分に認識されていないため、効率的な学校運営には至っていない。
- ⑤ プロジェクトチームを中心にして、校内研修と連動させて教職員間で共通理解を図り、本校ブランドデザイン及びコモンルーブリックを確定した。今後はコモンルーブリックを指標に教育活動の実践を深化していく。
- ⑥ 若手教員による研究授業の事前事後指導や「立国タイムズ」作成と連動させたOJTが定着した。
- ⑦ 予算の執行等を通じた経営企画室職員と教員の連携については、計画外に経費計上が求められる事例が数回あった。各事業における費用対効果を常に念頭に置きながら連携強化の必要がある。
- ⑧ 週休日の勤務の事前申請の徹底など、日々の服務規律意識が高まってきた。体罰防止については「体罰をしない させない 許さない」をスローガンとしたが、調査では配慮のない言動が数例あった。

### (2) 学習指導

- ① 本校ブランドデザインと連動し、中高一貫教育6年間のメリットを最大限に生かした体系的な新教育課程を編成し、来年度から実施する。今後は全学年・全教科でルーブリックに基づいた教育を展開する必要がある。

- ② 全教科で主体的・対話的な深い学びを目指した授業が増えている。今後も大学入学共通テストに対応した学習指導について情報収集を進め、生徒の達成感を高める指導方法の工夫を継続する。
- ③ 後期生を中心に自習室の有効利用が定着した。今後は自宅課題の「見える化」をさらに進める。
- ④ 長期休業中における予備校等での進学指導研修に参加する教員が増え、難関大学合格に直結する教科指導力は確実に高まってきている。大学入学共通テストに対応した教科指導力を継続して高めていく。

### (3) 進路指導

- ① ケース会議・大学入試分析会の充実など後期課程での体系的な進路指導は徐々に整いつつあるが、コロナ禍のため職場体験はできなかったが、前期課程において、保護者による職業紹介や進路講演会など、生徒が将来を自分のこととして考えるキャリア教育を実施し、今後も継続していく。
- ② ケース会議・大学入試分析会を通じたデータ分析に基づく指導は行っているが、個々の生徒への具体的な指導改善を提案するまでには至っていない。関係業者との連携もさらに充実させていく必要がある。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響により休業期間の短縮等が発生し、講座数を絞らざるをえなかったが、平日の朝講習、放課後講習の充実を行った。来年度は、内容の充実を一層図るとともに、例年通りの講座開設を目指す。
- ④ 保護者会や進路だより、学校ホームページ等を中心に、分かりやすい進路情報発信を継続する。

### (4) 生活指導

- ① 登下校指導や挨拶励行指導、遅刻指導、服装指導、SNSマナー指導等を通じて、生活習慣の確立を徹底した。また生徒情報交換会を定期的実施し、個々の生徒の状況に応じた指導を行った。
- ② ホームルーム活動や学校行事、部活動等の活性化を通じて、生徒の帰属意識を高めている。
- ③ コロナ禍のため、三祭（体育祭、文化祭、合唱祭）等の学校行事や生徒会・委員会活動が十分できなかったが、代替行事の実施など工夫した取組を行い、異年齢集団での活動を図った。今後は中高一貫教育校の特性を生かすだけでなく、今年度の取組を生かしながら、国際社会で活躍できるリーダーを育成する指導を充実させていく。
- ④ いじめ対策委員会や、事案発生に迅速に対応するサポートチーム委員会等を通じて、校内での情報共有とともに、教育相談センター等の関係機関との連携を進めた。
- ⑤ コロナ禍のため、宿泊防災訓練や上級救命講習等が実施できなかったが、避難訓練の実施や、教職員の消防訓練を通じて地元消防署と連携した取組を実施した。

### (5) 国際探究

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、東京グローバル10指定校として、留学生の受入れや5学年海外研修旅行でのオーストラリア姉妹校交流等、十分な国際教育が実施できなかったが、生徒の豊かな国際感覚の醸成を図るため、代替行事としての「Global Village」やSYDの国際教育講座受講などを工夫した取組を実施した。
- ② 全学年での継続した英検指導や、GTEC for Students & Speaking Test（4学年）、TEAP（5学年）の受検に向けた指導を年間計画に基づき実施し、スコアが上昇傾向にある。
- ③ 都教委の次世代リーダー育成道場や文科省のトビタテ留学希望者も多いため、今後も関係機関との連携を強化し豊かな国際感覚を持つリーダーを育成する。

### (6) 安全・環境美化・健康指導

- ① 避難訓練、前期朝礼時の安全指導、養護教諭による事故報告カードの徹底などを通じて、生命尊重を第一に据えた生活指導を推進した。
- ② 定期的な生徒情報交換会やスクールカウンセラーを交えた臨時ケース会議など、発生した事案に対して全教職員で迅速に対応し、カウンセリングマインドを高める体制が整いつつある。
- ③ 生活指導と保健相談を連動させ、前期生・後期生の一貫した健康保持意識を向上させた。
- ④ 校舎内外の毎日の清掃や行事前の美化活動等を通じて、生徒の環境美化意識が高まった。

### (7) 募集・広報・地域活動

- ① 総務部を中心に、本校の魅力を発信する組織的な取組が定着した。応募倍率を高めることを目指すため、今後も生徒募集対策への新たなアイデアを検討し、さらなる工夫を行う。
- ② 緊急事態宣言の発令と新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習塾対象説明会等中止せ

ざるを得なかったが、受検雑誌での学校紹介や、学校説明会のオンライン化と開催回数の増加により、本校の魅力を広く発信する取組を継続した。海外帰国・在京外国人枠募集についても、英語版学校案内の継続や私塾の説明会に参加し、募集対策の工夫を行った。

- ③ 学校ホームページの更新回数を増やし、年間を通じて広報誌「Tachikoku Times」を近隣中学校や地域に配布するなど、開かれた学校の実現のため情報発信方法を拡大した。ホームページのリニューアルが終了し、知りたい情報にアクセスしやすい環境整備に今後も努めていく。
- ④ コロナ禍のため、近隣の小学生対象の部活動体験や地域の曙まつりに吹奏楽部が参加するなど、例年行っている地域の関係機関と連携した本校の教育活動の効果的な情報発信ができなかった。

#### **(8) 施設設備管理・経営企画室運営**

- ① 企画調整会議や毎朝の管理職と経営企画室長との打ち合わせ等を通じて、業務の進捗状況の確認を徹底し、迅速かつ効率的な業務遂行を目指した進行管理を適切に行った。
- ② 施設設備に問題が発生した際は、学校経営支援センター等と迅速に連絡調整を行い改善した。
- ③ 予算執行について、関係部署と早め早めの連絡調整を徹底し適切に処理した。

#### **(9) 都立小中高一貫教育校の設置**

- ① 都立学校教育部や西部学校経営支援センター等と連携し、附属小学校開設に向けた保護者説明会を実施するとともに、建築中は安全確保に向けて関係機関及び施工業者との調整を進めた。
- ② 昨年度編成した附属小学校プロジェクトチーム（PT）の体制を強化し、既存校舎の改修工事を含めて検討し具体的に対処していくため、校舎改修等に関する対策検討委員会を立ち上げた。委員会を適宜開催し、諸課題を整理しながら早期に対処し教育活動への影響を抑えた。